

授業科目	看護学概論		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	看護師（臨床実務経験有）					
科目目標	1．看護の対象である人間の特徴について理解する。 2．健康の概念および健康と疾病に影響する因子、健康障害をもつ対象の心理的特徴について理解する。 3．看護の概念および看護の本質について理解する。 4．看護の機能と役割を理解する。 5．人々の健康に関与する関連職種の役割を知り、看護における調整機能を理解する。 6．看護の歴史的変遷を知り、看護を取り巻く社会の変化とこれからの看護の展望について考える。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	看護学の全体像と学びの特色	講義	看護師	
	2	2	看護の定義 看護の変遷	講義		
	3	2	看護の対象	講義		
	4	2	健康とは 病気とは	講義		
	5	2	看護の機能と役割	講義		
	6	2	看護サービス提供の場 多職種協働	講義		
	7	6	看護活動の実際	病院見学		
	8	2	病院見学まとめ	演習		
	9	2	看護実践のための理論とその適応①	講義		
	10	2	看護実践のための理論とその適応②	講義		
	11	2	看護教育制度の変遷 看護の専門職集団の目的・役割	講義		
	12	2	社会の変化と保健医療福祉政策の動向	講義		
	13	2	まとめ 終講試験	講義 試験		
評価方法	筆記試験 80 点 課題点 10 点 平常点 10 点					
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院					

授業科目	看護倫理	単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標	1. 倫理とは何か、看護職が倫理を学ぶ必要性について理解する。看護における倫理について理解する。 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯を理解する。 3. 看護をめぐる倫理的問題を理解する。 4. 倫理原則について理解する。 5. 事例検討をとおして倫理原則の活用について、看護倫理について考えを深められる。				
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師
	1	2	患者の権利と倫理と看護	講義	専任教員
	2	2	倫理の歴史的経緯と看護倫理における倫理原則	講義	
	3	2	看護をめぐる倫理的問題と倫理的責任	講義	
	4	2	看護における倫理①	演習	
	5	2	看護における倫理②	演習	
	6	2	看護における倫理③	演習	
	7	2	看護における倫理④	演習	
	8	1	終講試験	試験	
評価方法	筆記試験 100 点				
評価基準	60 点以上で合格				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 看護学テキスト 統合と実践 看護倫理 学研メディカル秀潤社 日本看護協会監修：看護者の基本的責務 日本看護協会出版会				

授業科目		看護過程Ⅰ		単位数	1	時間数	30			
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）								
科目目標		１．看護実践における問題解決思考を学ぶ。								
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師					
	1	2	ガイダンス 問題解決過程とは	講義	専任教員					
	2	2	看護過程 看護過程とは 看護過程の構成要素 看護過程と問題解決法 看護過程とクリティカルシンキング 看護過程とリフレクション	講義						
	3	2	看護の枠組み ゴードンの機能的健康パターン 看護の枠組みと看護理論	講義						
	4	2	看護過程展開 事例展開（アセスメント） 【患者を知る】 疾患の理解（病気を抱えたその人） 生活者（病気によってどのような変化が起きているか） 生活者（病気によって何が困るのか）	講義						
	5	2	事例展開（アセスメント） ゴードンの枠組みを使ったアセスメント	GW						
	6	2	事例展開（看護診断）	講義・GW						
	7・8	4	事例展開（全体像）	講義・GW						
	9・10	4	学習成果発表会（全体像の発表）	GW						
	11	2	事例展開（看護計画）	講義・GW						
	12	2	事例展開（実施・評価）	講義・GW						
	13	2								
	14	2								
	15	1	演習 演習解説	講義・GW						
	16	1	終講試験	試験						
	評価方法		筆記試験＋課題点							
	評価基準		60 点以上で合格							
テキスト		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 リンダ J. カルペニート 看護診断ハンドブック 医学書院								

授業科目	看護過程Ⅱ			単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）						
科目目標	1．看護実践における問題解決思考を学ぶ。						
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
	1	2	事例紹介 看護過程（看護診断、共同問題、看護問題）	講義	専任教員		
	2	2	事例展開 共同問題について	講義・GW			
	3	2	事例展開 共同問題計画の立案	講義・GW			
	4	2	事例展開 情報の分析	講義・GW			
	5	2	事例展開 問題の明確化と関連図	講義・GW			
	6	2	事例展開 看護計画の立案	講義・GW			
	7	2	事例展開 看護計画の実施と評価	講義・GW			
	8	1	終講試験	試験			
評価方法	筆記試験＋課題点						
評価基準	60 点以上で合格						
テキスト	アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 リンダ J. カルペニート 看護診断ハンドブック 医学書院						

授業科目	フィジカルアセスメント	単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標	1. フィジカルアセスメントの意義・目的と必要な技術が理解できる。 2. 問診の目的と実際について理解できる。 3. フィジカルイグザミネーション(視診、触診、聴診、打診)の方法が理解できる。 4. バイタルサイン測定（体温・血圧・脈拍・呼吸）に必要な知識が理解できる。 5. バイタルサインを正確に測定できる。 6. 系統別アセスメントに必要な知識が習得できる。				
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師
	1	2	1 フィジカルアセスメントの意義・目的 2ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性 2.生命維持の徴候 3.フィジカルアセスメントに必要な技術	講義	専任教員
	2	2	1.体温とは 2.体温の生理的変動要因と体温調節の異常 3.体温測定の方法	講義	
	3	2	1.呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 正常な呼吸とは 3) 呼吸の生理的変動要因と呼吸の異常 4) 呼吸の観察項目と方法	講義	
	4	2	1.呼吸器系の観察の実際 呼吸器形の間診、視診、聴診、触診	演習	
	5	2	1.循環器系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 脈拍（心拍）とは 3) 正常な脈拍とは 4) 脈拍の生理的変動要因と異常 5) 脈拍の観察項目と方法 6) 血圧とは 7) 血圧の基準値 8) 血圧の生理的変動要因と異常 9) 循環器系の観察	講義	
	6	2	1. 循環器系の観察の実際 循環器系の間診、視診、聴診、触診 血圧測定方法 脈拍測定方法	講義	
	7	2	1. 循環器系の観察の実際 血圧・脈拍測定①	演習	

	8	2	バイタルサイン測定 体温、脈拍、血圧②	演習	
	9	2	バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）試験	実技試験	
	10	2	1.腹部のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 腹部の生理的変動要因と異常 3) 腹部の観察項目と方法 2. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 筋・骨格系の異常 3) 筋・骨格筋の観察項目と方法	講義	
	11	2	1. 腹部のフィジカルアセスメントの実際 腹部の問診、視診、聴診、触診 2. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 筋・骨格系の問診、視診、MMT、関節可動域測定	演習	
	12	3	1. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 意識とは 3) 意識状態の観察と神経学的所見 4) 神経系の観察項目と方法	講義 演習	
	13	2	事例をもとにフィジカルアセスメントしてみよう	講義 グループ ワーク	
	14	2	事例をもとにフィジカルアセスメントしてみよう	講義 グループ ワーク	
	15	1	終講試験		
評価方法	筆記試験 100 点・バイタルサイン測定実技試験				
評価基準	筆記試験 60 点以上とともに実技試験が合格基準に達していること				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 佐藤達夫監 新版からだの地図帳 講談社				

授業科目		看護に共通する基本技術		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標		1. 看護における安全・安楽の意義と重要性を理解する。 2. 安全・安楽を阻害する因子について理解し、その軽減方法を知る。 3. 医療上起こりやすい事故の要因と対策について理解する。 4. 感染予防の方法を学び、実施することができる。 5. 安楽のために使用される道具・物品の活用について学び、実施することができる。 6. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。 7. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を修得する。 8. 援助者の安全・安楽を守る支援の方法について理解する。 9. 基本的活動の基礎知識およびボディメカニクスの原理を理解する。 10. 看護場面でのボディメカニクスの活用について理解する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
安全・安楽	1	2	看護における患者の安全 安全に影響を及ぼす要因 看護上起こりやすい事故 事故防止の方法	講義	専任教員		
	2	2	感染予防	講義			
	3	3	感染予防法の実際	演習			
	4	2	看護における安楽 安楽確保の技術	講義・演習			
コミュニケーション	5	2	コミュニケーションの基礎的知識 看護におけるコミュニケーション	講義			
	6	2	関係構築のためのコミュニケーション	講義・演習			
	7	3	効果的なコミュニケーション「聴く力」 傾聴の技術・情報収集の技術	講義・演習			
	8	2	効果的なコミュニケーション「伝える力」 説明の技術・アサーティブネス	講義・演習			
	9	2	プロセスレコードによる分析・考察	講義・演習			
	10	3	演習:患者とのコミュニケーション	演習			
ボディメカニクス	11	2	人間の動きとボディメカニクス 安楽な体位	講義			
	12	2	安楽な体位と良肢位の保持	講義・演習			
	13	2	看護場面でのボディメカニクスの活用	講義・演習			
	14	1	終講試験	試験			
評価方法		筆記試験 100 点 (安全・安楽 35 点、コミュニケーション 40 点、ボディメカニクス 25 点)					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目		日常生活の援助技術Ⅰ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標		1. 入院患者の生活環境を理解する。 2. 安全で快適な病床環境の条件を理解する。 3. 基本的なベッドメイキングができる。 4. 臥床患者のリネン交換ができる。 5. 患者にとって安全で快適な病床環境を整えることができる。 6. 活動、移動の意義を理解する。 7. 人間の生活活動を理解する。 8. 生活行動への援助を理解する。 9. 体位変換・体位の保持・移動の基本的技術を習得する。 10. 睡眠の意義と睡眠のメカニズムを理解する。 11. 睡眠に影響を与える因子をふまえ、よりよい睡眠への援助について理解する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
環境	1	2	人間と環境 入院患者の生活環境	講義	専任教員		
	2	2	安全で快適な病床環境の条件と看護	講義			
	3	3	環境整備 ベッドメイキング	演習			
	4	2	ベッドメイキング	演習			
	5	2	臥床患者のリネン交換	演習			
	6	2	臥床患者のリネン交換	演習			
活動・運動	7	2	人間の活動の意義 活動のメカニズム 臥床による人体への影響	講義			
	8	2	生活行動のアセスメントと援助	講義・演習			
	9	4	体位変換と体位保持	演習			
	10	4	移動・移送 歩行の援助	演習			
休息・睡眠	11	2	睡眠の意義と基礎知識 (メカニズム・種類・身体生理機能の変化)	講義			
	12	2	睡眠障害の種類とその要因 睡眠に関するアセスメントと援助	講義			
	13	1	終講試験（環境、運動・活動、休息・睡眠）	試験			
評価方法		筆記試験 100 点（環境 45 点、活動・運動 40 点、休息・睡眠 15 点）					
評価基準		筆記試験 60 点以上					
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目		日常生活の援助技術Ⅱ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標		1. 人間にとっての清潔の意義を理解する。 2. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 3. 清潔ニーズのアセスメントと清潔援助の方法選択について理解する。 4. 全身清拭、床上での洗髪ができる。 5. 衣生活の意義を理解する。 6. 病床での衣生活の基礎知識を理解する。 7. 臥床中の寝衣交換ができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
清潔	1	2	人間にとっての衣服の役割と看護の意義 衣生活に関するニーズのアセスメント 病床での着衣・更衣への援助の実際	講義			
	2	2	寝衣交換の実際（和式・洋式）	演習			
	3	2	人間にとっての清潔の意義と看護 清潔の援助に関する基礎知識 清潔のニーズのアセスメント 清潔援助の効果と全身への影響	講義			
	4	2	対象の状態に応じた清潔援助の方法選択 清潔の援助の実際と留意点 入浴、シャワー浴、全身清拭、洗髪、手浴、足浴、 陰部洗浄	講義			
	5	2	清潔の援助技術：モーニングケア 口腔ケア 整髪、顔面清拭の実際 モーニングケアの援助計画	講義			
	6	2	モーニングケア 口腔ケア 整髪 顔面清拭	演習			
	7	2	清潔の援助技術：洗髪 頭髪への清潔の援助の方法選択と援助の実際、留意 点	講義			
	8	3	ケリーパッドを用いた洗髪	演習			
	9	1	洗髪技術試験	実技試験			
	10	2	清潔の援助技術：全身清拭 皮膚の清潔援助の方法選択 全身清拭の目的と援助の実際、留意点	講義			
	11	2	臥床患者の全身清拭の方法①	演習			
	12	2	臥床患者の全身清拭の方法②	演習			
	13	1	全身清拭技術試験	実技試験			
	14	2	清潔の援助技術：足浴 手浴 陰部洗浄 足浴・手浴・陰部洗浄の目的と援助の実際と留意点	講義			
	15	2	足浴・手浴・陰部洗浄	演習			
	16	1	終講試験（清潔）	試験			
評価方法		100 点満点					
評価基準		60 点以上					
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目		日常生活の援助技術Ⅲ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標		1. 人間にとっての食事と栄養の意義を理解する。 2. 食事と栄養のニーズを充足するための基礎的知識を理解する。 3. 栄養状態及び食欲・摂食嚥下能力のアセスメント方法を理解する。 4. 食事の基本的援助を理解する。 5. 経口摂取困難な場合の食事の援助方法を理解する。 6. 人間にとっての排泄の意義を理解する。 7. 排尿・排便のメカニズムを理解し、アセスメントの方法を理解する 8. 対象に適した排泄援助の方法選択について理解する。 9. 快適な自然排尿・排便の援助を理解する。 10. 床上での排泄援助ができる。 11. 看護技術の原理とその根拠を理解し、対象の状況に合わせて援助ができる応用力を身につける。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
食事	1	2	食と栄養の意義 摂食・嚥下行動のメカニズム 栄養と食事に関するアセスメント 健康障害と食事	講義	専任教員		
	2	2	食事援助の目的と看護師の役割 食事援助の実際	講義			
	3	2	経口摂取困難な場合の食事援助の方法 病院食の実際	講義			
	4	2	食事介助の実際	演習			
排泄	5	2	排泄の意義 排尿・排便のメカニズム 排泄に影響を及ぼす因子	講義			
	6	2	排便のアセスメント 排便障害の種類 便秘のある患者の援助方法	講義			
	7	2	自然排便を促すための援助 グリセリン浣腸、摘便の実際	演習			
	8	2	排尿のアセスメント 排尿障害の種類 排尿障害のある患者の援助方法	講義			
	9	2	排泄行動が制限された患者のアセスメントと援助	講義			
	10	2	床上での排泄援助の実際	演習			
	11	2	床上での排泄援助の実際	演習			
総合演習	12	7	対象に応じた日常生活援助 ・模擬事例の状態に合わせて援助計画を立案する ・援助計画にそって援助を実施する ・患者の反応と結果を振り返り、援助計画を修正する	演習			
	13	1	終講試験	試験			
評価方法		筆記試験：食事 40 点、排泄 60 点					
評価基準		60 点以上					
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目		診療に伴う援助技術Ⅰ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標		1. 検査における看護師の役割が理解できる。 2. 臨床検査の目的と方法、検査時の看護について理解できる。 3. 診察、検査、処置に伴う看護師の役割が理解できる。 4. 創傷治癒過程を理解し、創傷処置（創保護）の方法が理解できる。 5. 酸素療法の目的と方法を理解する。 6. 排痰ケア（吸引・気道内加湿法）の目的と方法を理解する。 7. 採血の基本技術が習得できる。					
	回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師	
	1	2	臨床検査とは 臨床検査における看護師の役割 臨床検査結果の評価		講義	専任教員	
	2	2	検体検査：血液検査（静脈血採血）の方法 静脈血採血の方法、合併症とその予防 血液データの読み方		講義		
	3	2	各種検体検査の目的 検体採取時の留意点 検体検査時の看護（内視鏡検時の看護）		講義		
	4	2	各種検体検査の目的 検体採取時の留意点 検体検査時の看護（胸腔穿刺等）		講義		
	5	2	生体検査の種類と目的 生体検査時の看護 放射線の被ばく防止対策の実際		講義		
	6	2	創傷管理と看護 創傷の種類と創傷治癒過程 創傷処置 ドレッシング法の目的とドレッシング材の種類		講義		
	7	2	無菌操作の基礎知識 滅菌物の取り扱いの基本		講義		
	8	2	無菌操作の実際（鑷子・綿球等の取り扱い） 創傷処置（ガーゼ交換・ドレッシング材の貼付と除去）		演習		
	9	2	創傷処置と包帯法		講義・演習		
	10	2	酸素療法の目的・適応・供給方法と看護 酸素ボンベ 排痰ケア 吸引と吸入（気道内加湿法）の目的・適 応・方法と看護		講義		
	11	3	酸素療法・吸入・吸引の実際		講義		
	12	2	注射器による静脈血採血の実際①		演習		
	13	2	注射器による静脈血採血の実際②		演習		
	14	2	注射器による静脈血採血の実際③		演習		
	15	1	終講試験		試験		
評価方法		筆記試験 80 点 課題提出 20 点の合計 100 点					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目	診療に伴う援助技術Ⅱ			単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）						
科目目標	1．与薬の目的と与薬における看護師の役割を理解する。 2．与薬に伴うリスクを理解する。 3．与薬の種類と方法、留意点を理解する。 4．与薬を受ける患者の苦痛を理解する。 5．輸血療法の看護が理解できる。 6．筋肉注射、点滴静脈内注射の基本的技術を習得する。 7．輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いを理解する。						
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
	1	2	与薬の基礎知識 安全な与薬のための原則 薬物（抗がん剤）暴露防止	講義	専任教員		
	2	2	与薬の種類と援助方法	講義			
	3	2	注射法の基礎知識	講義			
	5	2	注射剤の準備と筋肉内注射の方法	講義			
	6	2	注射の準備	演習			
	7	2	筋肉内注射の実際①	演習			
	8	3	筋肉内注射の実際②	演習			
	9	2	点滴静脈内注射の方法	講義			
	10	2	点滴静脈内注射の実際① （プライミング 注射部位の選択）	演習			
	11	2	点滴静脈内注射の実際② （翼状針の刺入と固定、輸液管理と抜針）	演習			
	12	2	点滴静脈内注射の実際③	演習			
	13	1	点滴静脈内注射の実際	実技試験			
	14	3	輸液ポンプとシリンジポンプの適応と取り扱い 点滴静脈内注射による混注 三方活栓 中心静脈カテーテルの管理 点滴留意中の寝衣交換	講義 演習			
		2	輸血管理 基礎知識 輸血時の看護	講義演習			
	15	1	終講試験	試験			
評価方法	筆記試験 100 点 点滴静脈内注射実技試験						
評価基準	筆記試験 60 点以上 かつ 実技試験合格をもって単位認定する。						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院						

授業科目		健康教育技法		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)		非常勤講師（保健師実務経験有）					
科目目標		1．ヘルスプロモーションについて理解できる。 2．健康教育の定義・目的・健康行動理論について理解できる。 3．健康教育における看護師の役割と目標について理解できる。 4．健康教育の実際と方法についてわかる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
	1	2	健康って何だろう？ 健康教育の目的とは？ ・健康の定義、目的 ・ヘルスプロモーションとは ・国の施策 ・健康教育の実際 ・看護における学習支援 ・学習支援の方法	講義 グループワーク	非常勤講師		
	2	2	健康教育における看護師の役割とは？ ・問題解決技法はなぜ必要か ・看護を必要とする対象者 ・勤労者医療における健康教育 ・看護師の役割とは ・健康教育の方法と媒体について	講義			
	3	2	対象を理解し、有効な方法とは？ ・健康行動理論について ・健康行動理論に沿った健康教育	グループワーク			
	4	2	健康教育の実際を考えてみよう！ ・事例検討	グループワーク			
	5	2	健康教育の実際を行ってみよう！ ・健康教育発表（事例に基づいた健康教育）	グループ 発表			
	6	2					
	7	2	健康教育技法まとめ ・意図的なコミュニケーションとは	講義			
	8	1	終講試験	試験			
	評価方法		筆記試験 100 点				
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		市村久美子他編：新体系看護学全書別巻　ヘルスプロモーション　メジカルフレンド社					

授業科目	臨床判断			単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）						
科目目標	1. 臨床判断では、臨床判断モデルを活用し、事例の患者にとって最適な看護を導く力を養う。事例は2事例を展開し、①腹部外科手術後、疼痛コントロール不良な患者の早期離床に向けた看護について、②呼吸器外科手術後の術後合併症予防、早期離床に向けた看護について、患者の反応などから患者の状態を解釈し、最適な看護を考える。患者の部屋へ入った時、何には確実に気がつくようにするかを考え（予期）、ベッドサイドでは何に気が付いたか（気づき）、そして観察や問診したことから患者の看護問題を特定（解釈）し、援助の実施（反応）、そして実施したことを評価（省察）する能力を養う。						
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
	1	2	ガイダンス 事例検討① 「S 状結腸切除術後事例」 予期	講義	専任教員		
	2	2	事例検討① 気づき	演習			
	3	2	事例検討① 解釈	講義・GW			
	4	2	事例検討① 解釈	講義・GW			
	5	2	事例検討① 反応・省察	GW			
	6	2	事例検討① 予期	講義・GW			
	7	2	事例検討② 「肺がん切除術後事例」 予期・気づき	GW			
	8	2	事例検討② 気づき・解釈	GW			
	9	2	事例検討② 解釈	講義・GW			
	10	2	事例検討② 解釈	講義・GW			
	11・12	4	事例検討② 反応（術直後の観察）	演習			
	13・14	4	事例検討② 反応（早期離床の介助）	演習			
	15	2	事例検討② 省察・まとめ	講義・GW			
評価方法	平常点 + 課題点 100 点						
評価基準	60 点以上で合格						
テキスト	別途、指示						
使用 DVD	臨床判断 「気づくトレーニング」 第2巻						